

平成 22 年度第 1 回中原区区民会議運営部会会議録

○日 時 平成 22 年 8 月 9 日（月） 午後 1 時～午後 3 時 10 分

○場 所 中原区役所 5 階 503 会議室

○出席者 鈴木部会長、杉野副部会長、板倉委員、川連委員、松本委員、・房委員

（事務局）山崎副区長、企画課：飯塚課長、織裳担当係長、橋本職員、園田職員、宮田担当係長

（行政関係者）地域振興課：川添担当課長、佐藤担当係長、地域保健福祉課：小金井課長、高齢者支援課：早坂課長、子ども支援室：守屋担当課長

○傍 聴 なし

○報 道 なし

○次 第

1 開会

2 中原区区民会議運営部会要領について

⇒従来の要領で今後も継続することです承

3 正副部会長の互選

⇒鈴木委員を部会長、杉野委員を副部会長に選任

4 会議録確認委員の選任

⇒板倉委員を選任

5 議題

（1）第 1 回中原区区民会議の感想について

（主な意見）

- ・ 大阪で児童虐待の痛ましい事件が起こった。子育てサロンの活用について区民会議で考えたかどうか。（川連委員）
- ・ 区民会議には、今回が初めての参加である。第 1 回目の会議では様々な意見が出されたが、人口など細かいデータの裏付けがされていないものもあるのではないかと感じた。今後、データを集めて勉強していきたい。（板倉委員）
- ・ 防犯、防災、子どもなど地域に密着した良い点、悪い点の討議を町内会で進めている。世間では、地域での人間関係が希薄となり様々な事件や不都合が起きている。イベントを実施することにより人間関係をつくり、地域の絆を強くしていきたい。（・房委員）
- ・ アンケートの結果を踏まえると、防犯、災害などの面で、お互いに助けあっていきたいと思っているのだろうが、つながりがないことにより、どうしたらよいか分からない方が多いのだろうと感じる。また、情報が行き届いていないことにより困っている方が多いと思う。みんなが身近に関わることができ、連携できる課題を選定したい。（松本委員）
- ・ 災害時に限らず、人間の絆が大切と感じている。地域に一つでも新しいネットワークを立ち上げたい。どこまで自主努力をできるか。行政の手助けなしでどこまでできるか、各団体を横に繋いでいきたい。（杉野副部会長）

(2) 第1回中原区区民会議の意見集約について

○事務局：資料1により、第1回区民会議で各委員から提案された意見の説明を行う。

(主な意見)

- ・ 小杉駅周辺に高層マンションが完成し、人口が12,000人、4,000世帯が暮らし、70%が30代、40代の方である。前回の本会議で意見があったが、大型集合住宅に対する情報の発信が十分でないことは事実である。また、新旧住民の交流もできていないことがあげられる。次に、防災について、高層マンションで災害が発生して停電が起こった場合には、エレベーターも停止し高層階から降りてくることも困難となる。また、近くに避難所もない。再開発エリア内に避難所を設置し、緊急時の物資も置くべきである。本来ならば、高層マンションに対応した避難訓練を実施すべきである。(・房委員)
- ・ 再開発地区のマンションに商店街のマップを届けたら、マンションの受付で断られてしまった。(川連委員)
- ・ 「情報不足」の声が多いが、本来、情報は自分で取りに行くものと感じている。若い世代では、情報を取りに行くという意識が低くなっていることも感じる。(鈴木部会長)
- ・ 災害時などに、自分の身は自分で守るという意識が低くなっていると感じる。マンションには管理組合があるが、届けられた情報も配ろうという意識がないから配布されないのではないかと感じる。これも人間関係が希薄になってきていることによるものと感じている。(・房委員)
- ・ 人間関係が希薄になってきていることが、あらゆる面で悪影響を及ぼしていると感じる。これを区民会議でなんとかすることができると考えていかなければならない。(鈴木部会長)

(3) 第2回中原区区民会議の議題の候補及び今後の議題について

○事務局：資料2-1、2-2、2-3により課題選定から課題への取り組み事例などを説明

(主な意見)

- ・ 第1期、第2期の具体的な取り組みから、精神論的な取り組みに変わってきていて、難しい面もあるが適切な課題を選定していきたい。(鈴木部会長)
- ・ 民生委員児童委員協議会で、各区の代表が集まる会議があり、危機管理室の佐々木室長の話聞く機会があった。これからは、町会の担当である地域振興課と民生委員の担当である地域保健福祉課が連携をとっていき、民生委員が進める「災害時、一人も見逃さない運動」と手挙げ方式である「災害時要援護者避難支援制度」を一本化していこうという話であった。この話を聞いて災害時に備え、町内会、民生委員が良く話をして連携をすることが重要であると感じた。これに加え、企業、学校といったネットワークを組んでおく必要があると感じている。生命・財産の安全安心という観点から、人と人がつながっていくということが最重要と感じている。各組織が、つながることにより町内会の加入率もあがることになると思う。民生委員は、マンションも含めほとんど全ての高

齢者を訪問している。そこで高齢者の声を聞くと、多くの老人が、いざという時にどのようにしたらよいか悩んでいて、町会にも加入したいと考えている。「町会と民生委員の取り組みをつなげることで、さらに社協、学校をつなげることで、安心に暮らせることにつながるのではないかと考えて、これは先駆的な取り組みにもなるし、区民会議のテーマとしても良いのではないかと考えました。(杉野副部会長)

- ・ 区民会議のテーマとして、「いざという時のために～安全・安心の絆作りに向けて」というようなキャッチコピーにしたらどうかと思う。前回の会議でも話があったが、町会、民生委員、学校、管理組合、自治会、行政など多くの組織があり、それぞれが縦割りになっていて、横につながっていないことで、上手くいっていないと感じた。安全・安心のためのネットワークづくりを目指したらと考えている。(鈴木部会長)
- ・ 課題の決め方だが、第1期、第2期の申し送り事項はないのか。(板倉委員)
- ・ 第1期、第2期の申し送り事項はないと考えている。放置自転車の対策のように継続的に取り組む必要があるものもあるが、それぞれの課題に対して一定の成果を出してきているので、今回、課題を選定するにあたって、過去のテーマを意識する必要はないと考えている。(企画課長)
- ・ 第1期、第2期継続して参加しているが、区民交流サイトや子育てサロン、サロンへの高齢者の参加など、区民会議で話し合われたことが地域に根付いて活動が継続されていることを実感している。過去に話し合われたことが、それで終了ということではなく、それが基に、各分野で進化していると捉えてよいと思う。(松本委員)
- ・ 区民会議で話し合われたから、その分野の課題、問題が全て解決したということではない。これだけ人口の動きやまちの変化が激しい区だから、同じ分野の課題を選定しても現在の状況は変わってきていて、論点の重複はないと思う。(鈴木部会長)
- ・ 地域のお祭でも、町内会と商店街が上手く連携できていない。商店街では防災訓練を行ったことはない。町内会の防災訓練は実施されているが、参加している方も一部の方と感じる。今度、商店街連合会で、はじめて防災についての研修が行われる。(川連委員)
- ・ 町内会の役員を務め、PTAも務めていた際に、各団体と連携して防災訓練を行ったことがある。連絡網も作り、非常に良かったことを記憶している。(鈴木部会長)
- ・ 今、個人情報の問題があり難しい面もある。(川連委員)
- ・ ハザードマップを市民の手で作成したことがあったが、給水ポイント、コンビニなど限られた必要な情報を記入して、見やすく非常に評判であった。区民会議の成果として作成できないだろうか。(鈴木部会長)
- ・ 中学校でも地域の方と一緒に自分たちの地域を見直す「防災・防犯」の取り組みを持ち回りで行っている。中学生、高校生、大学生など若い人も参加できるような防災訓練などをやったらどうだろうか。(松本委員)
- ・ 杉野委員から話がでた、学校、企業まで巻き込んだ防災訓練だと大きな話となり難しい面もあると思うが、区民会議からの発意で少しでも防災訓練のシステムが変わるようになれば良いと思う。(鈴木部会長)
- ・ 防災・安全安心まちづくりは、年に2回、この場所で研修を行っている。また、77町

会で消火訓練などを行っている。また、防災のマップを作ったところ評判が良かったので、今度は、防犯のマップを作り、町内会館の壁に貼っている。単会の訓練は行っているが、しばらく連携した訓練は行っていないのは事実である。関東大震災以来、大きな被災をしていないことから、我々の防災に対する意識が低下していることも訓練が行われない要因としてある。防犯に対しては、各町会でパトロールなどが行われているが、防災に対しては、取り組み意識をどのように高めていくかが課題である。（・房委員）

- ・ それぞれが取り組んでいるのだけど、全体として取り組み感がないように感じるのは問題がある。全体を鳥瞰図的に見えるようにして、区全体で取り組んでいることを分かるようにしていく必要がある。（鈴木部会長）
- ・ 人間関係が希薄になってきていることを打破しないと防災に関する取り組みも上手くいかないと感じる。避難訓練だって実施することはできるが、多くの方に関心を持ってもらうことが難しい。（・房委員）
- ・ 区全体で、各団体の横つなぎで対応するというのを念頭に置き、今回、アウトラインだけでも確立することを目指し、「防災、安全・安心」を最初のテーマとして取り組むことでよいでしょうか。（鈴木部会長）

⇒「防災、安全・安心」を最初のテーマとして了承。他にも課題として相応しいものがあれば、この際に検討したいので意見を出して欲しい。

- ・ 公園が各町会にある。公園という場を活用して、子どもとお年寄りの触れ合う仕組みづくりを提案した。ハード面ではなく、手軽に取り組めることを念頭において提案をした。（・房委員）
- ・ 子育てサロンを立ち上げるにあたっては、「100人の親子と知り合おう」ということをテーマに始めた。2人でも3人でも自分の近くの方と知り合おうという気持ちで人付き合いをすれば、すごく大きな力になると思う。高齢者の方が下校時の見守りを行うなど、中原区には土台がある。子育てに関しては、きっかけは作りやすく、取り組みやすい分野と思う。（松本委員）
- ・ 中原区は、7年前に子育てサロンを立ち上げるなど、非常に子育てに熱心な土地柄である。子どもを皆で守る、育てる、仕付けるという風土は非常に大切なことである。多くの方が子どもに目を向けていく仕組みを作ることは力を入れていくべきである。（・房委員）
- ・ 子育て支援の活動を継続していくうえでは、ボランティアの育成が欠かせないと思う。（杉野副部会長）
- ・ 子育ては子どもの年齢に応じて変わってくる。専門的な相談にのってくれる人が身近にいることが大切である。どうしても、人と人のつながりの部分が重要となり、テーマの中に入ってくると思う。（松本委員）
- ・ 高齢者と子育て世代、世代間交流の意見が多くあった。昔は「子どもは地域の宝だ」といった時代もあった。高齢者の中には、孤独を感じている方も多くいると思われる。2つ目のテーマの候補は、「地域における子育て応援体制づくり」でどうか。（鈴木部会長）

⇒「地域における子育て応援体制づくり」を2つ目のテーマの候補として了承

○事務局：大型集合住宅への情報伝達が課題であることが、前回の本会議で多数意見があったことに対し、事務局から資料4について提案

⇒試行実施することを了承、実施データを検証することで今後の方針を決めることとした。

(その他の意見)

- ・ 中原の観光スポットについて検討してみたい。二ヶ領用水の両サイドに区民の方が花を植えている。花クラブを活用して二ヶ領用水を花で飾ったら良い観光スポットになるのではないか。(・房委員)
- ・ 等々力緑地に多くの方が訪れている。そのことで多摩川を訪れる人も増えている。市民ミュージアム活用も大切なポイントだと思う。区が進めるエコカフェも良い活動だと思う。(鈴木部会長)
- ・ 取り上げ方が難しいが、環境問題、緑についても、テーマとしたい。また、ゴミ問題などはどうであろうか。(板倉委員)
- ・ 中原区は、単身で若い世帯が多い特徴がある。若い方が参画できるイベントなども設けていきたい。(松本委員)
- ・ 子育て未来フェスタなどのイベントにも、区民会議として参加して、若い方と意見交換しても良いのではないか。(鈴木部会長)
- ・ 中原区には大企業が沢山ある。企業と区民の連携を検討したらどうか。スポーツに力を入れている企業も沢山ある。(・房委員)
- ・ スポーツや文化活動が活発な学校も沢山ある。連携できれば面白いと思う。(鈴木部会長)
- ・ NECの吹奏楽は日本でもトップクラスである。(杉野副部会長)

(4) 第2回中原区区民会議の日程について

○事務局：前回の本会議で10月27日、28日を提案したところだが、副委員長をはじめ出席できない委員が多くいたため、10月13、15日を案として再提示する。また、区民の要望等を踏まえ夜間開催を提案する。

⇒10月13日(水)午後6時から開催で決定

(5) 第2回中原区区民会議の次第について

○事務局：【第2回中原区区民会議 次第(案)】

- ①運営部会、協働推進事業検討部会の報告
- ②第2回テーマの報告・審議
- ③課題調査部会委員の選任

以上の議題を主な内容とする。また、第2回のテーマについて、委員の理解を深めるため、行政職員や学識者等の説明を加えることを提案した。

⇒(案)のとおり了承

(6) 区民会議の広報について

○事務局：引き続き「区民会議だより」を発行することを提案し、第1号の主な内容を委員紹介とすることなどを説明した。また、各部会での審議内容を各委員と共有するため、審議内容をお知らせする通信などの作成も提案した。

⇒提案について了承

(7) その他について

—午後3時10分 終了—

以上要約のみ